

保存整備工事が
始まります。

武雄市では橋町にある「おつぼ山神籠石(こうごいし)」の保存整備事業に取り組んでいます。

この遺跡は昭和四十二年に国史跡となった、飛鳥時代から奈良時代にかけての古代山城で、極めて重要な遺跡です。

しかし残念なことに、考古学者と地元の人しか知らないマイナーな遺跡なのが現状です。

このままではもったいない！ということで、市では地元橋町の皆さまの協力をうけ「保存整備計画」を策定し、文化庁の了解を受け、保存整備事業を行うことになりました。

この保存整備事業により、おつぼ山神籠石がもっと見学しやすい史跡に生まれ変わります。

史跡「おつぼ山神籠石」

vol.2



城を守る
兵士の視点が
体験できる
展望所が
できます

橋公民館から
おつぼ山に
入れるよう
になります

散策の拠点と
なるように
看板・トイレ・駐車場が
整備されます

おつぼ山の
見所「列石」を
体感できる
歩きやすい
園路になります

歩きにくかった
第一水門前に
園路ができ
歩きやすくなります

整備のコンセプトはみんなが「来て」「見」「知」って体験することのできる史跡です。平成29年度から事業を進めてきました。

今年はおつぼ山神籠石の顔とも呼べる第一水門周辺の保存整備工事を予定しています。

適切な保存整備を通して史跡の持つ重要な価値を充実させ、確実に保存・継承していきます。

無事、保存整備事業が進むよう、皆さまのご理解とご協力をお願いします。



お問い合わせ 文化課 ☎0954-23-9181